

水の都「広島」の川筋

古く「三篠川」といわれた太田川は、河口部に大小の砂州を形成しました。戦国時代の広島地には、太田川本流から東に京橋川が分かれ、「二股川」となって瀬戸内海へ流っていった。太田川は西中国山地の冠山麓を發し、山県郡太田郷から流れ下り命名されたと伝えられています。分岐点の地先には、大芝から漂着した「さいかちの木」が一本立ち、「一本木の鼻」と呼ばれています。下流には「北ン鼻」の西に横向きに分岐する「横川」となり、一帯は旧沼田郡広瀬村で「広瀬川」とも呼ばれました。流域では広瀬小屋新開が開かれ「小屋川」と、後に「小屋川」がてき天満宮の勧請で「天満町」「天満川」となりました。

東を流れる「京橋川」は、白鳥から二葉の里の明星院への渡し場があり、「明星院川」と呼ばれました。牛田地区に建てられた日新館へは、神田の地に神田橋が架かり「神田川」とも呼ばれました。下流には毛利氏治世下に城下の北辺にあった「西国街道」が付け替えられ、京へ向かう京橋が架けられた「京橋川」となり、明治以降正式な河川名となりました。

不動院の西にあった「長和久の渡し」は、かつて新山村と長束村を結び、中世の山陽道の渡河点と思われます。京橋川の「明星院渡し」と太田川の「運上場渡し」に続く、白鳥の松原通りの東西に商人町が形成され、南には「羽子板堀」を造り太田川の水を引き入れ、「北堀」「内堀」「中堀」「外堀」（八丁堀）となり、「平田屋川」などの堀川が付けられました。牛田地区には広大な農地を潤すために、二又川からの用水を引き入れ、下流は鉄砲水から守るため「二又手」が築堤されました。三篠地区では桑原卯之助により、明和5年(1768)に完成した「定用水」（八木用水）が通り、豊富な水により広島北郊の農業地域となりました。



家中屋敷割図：白鳥郭

三篠の史跡

三篠神社 永禄年間(1558~70)に別府の地に大歳大明神を、天正年間(1573~1592)に横川の太楠の下に楠木大明神を創祀しました。承応3年(1654)に宮社を現在地に造立し黒皇大明神を祀り、大歳・楠木両大明神を合祀しました。大正3年(1914)には黒皇神社に、熊野神社(現新庄之宮神社)、八幡神社、青木神社を併せ三篠神社と改称し、安佐郡三篠町の総氏神となりました。昭和20年(1945)の被爆により社殿・境内木ともに全焼し、翌年には当社御旅所(現新庄之宮神社)の夫婦楠の種子を蒔き育て、社殿を再建し社寮とともに復興し、平成17年(2005)に愛・地球博で紹介されました。



新庄之宮神社 創祀より伊弉諾神を祀り、正慶年中(1332~1334)に伊弉册神を勧請し、熊野新宮大明神と称しました。大正3年(1914)に三篠神社と合併し御旅所となりましたが、昭和27年(1952)に独立し新庄之宮神社となりました。境内の樹齢約500年とも言われる夫婦楠は、県指定天然記念物になっています。現在の所在地名の「大宮」は当社の通称名に因むものです。



三滝寺 「芸藩通志」には三瀑と称し、雌雄の滝と駒ヶ滝の三つの滝をもって、三滝寺と称します。滝の傍らの観音堂に因み観音滝と記し、名水の湧出地でも知られます。大同4年(809)に空海が巡錫し、「正観示現」を感じ観世音菩薩の梵字の石刻を遺し、中世には守護武田氏の信仰が絶えず、文政9年(1826)に明憚が入山し龍泉寺を再興しました。大永6年(1526)創建と伝える県指定重文の「多宝塔」は、昭和26年(1951)に和歌山から移築され、内陣には仁平4年(1154)作と伝える木造阿弥陀如来坐像があり、平安時代の作風を伝え国指定重文となっています。三滝山には浅野家家老上田宗簡手植えと伝える宗簡松があり、山麓には日涉園跡があり後藤松眠が開闢し、全国唯一の藩営の薬園で市指定史跡となっています。



北郊の史跡



この地図は国土院発行の2万5千分の1地形図を使用したものです。使用地形図：1/25,000「広島」平成18年3月1日発行

長束神社 貞観12年(870)に長束平原西部の大年山に勧請され、文政11(1828)には長束村の総氏神として現在地に遷座しました。はじめは八幡宮と称し、

明治6年(1873)に長束神社と改称しました。太田川放水路の完成した昭和40年(1965)には、太田川総水神(太田川全流域の水神)を相殿に合祀しました。祇園大橋北詰の国道脇に神社への標柱が建てられています。



略称の「重文」は重要文化財のことです。

雁木

雁木は、船着場として使われていた護岸の階段で、潮の満ち引きなどによる水面の変化に関係なく、船を接岸できるように工夫されたものです。



楠木の太樫木

城下には多くの雁木が設けられ、太田川上流や瀬戸内海の島々から多くの船が集り、様々な生活物資が荷揚げされていました。

広島城下町の河岸には、雁木造りの石段が随所に設置され、俗に「真木戸」と呼ばれる荷役の施設もありました。今も京橋川沿いには数が残っています。

心行寺

正式には特留山白翁院心行寺といい、紀伊国より信譽秀翁が移り住み、元和8年(1622)草創し信楽寺となり、弟子の専譽に譲り後に改名されています。本尊阿弥陀如来は聖徳太子の作といわれ古式を伝え、境内墓所には広島藩士で画師の岡岷山の墓が建てられています。



宝勝院

正式には岩尾山興善寺宝勝院といい、慶長3年(1598)に毛利輝元の叔父で、広島城普請奉行二宮就辰の子孫権仙法印は、寺領を賜り広島城の鬼門守護のため開基しました。広島城の完成を喜ぶ人たちは仕事場に残った縄を集め大綱を作り、二組に分かれ引き合い賑やかな祭りとなり、大綱は鎮守社の礎石に奉納され、増仙法印から白幣にてお祝いされました。



芸州広島之図

絵図によると御用屋敷・侍屋敷・神社・仏閣などが記載され、白鳥地区には町人町の成立がみられます。白鳥の松原通りや出雲石見街道や、不動院への参詣道も描かれています。因みに城下町の街並みの形状から作成時期は、寛政年間(1789~1800)ごろと思われます。



牛田の史跡

神田神社 文亀3年(1503)に武田元繁は、牛田山南西の丘陵に八幡宮を勧請し、神社前の田畑を開拓したため、神田の地名が起り神社名となりました。寛文3年(1663)二代藩主浅野光晟のときに新山村に日新館が建てられ、翌年には白鳥からの通行のため神田橋が架けられ、参詣道となりました。毎年9月15日に例祭が行われ、牛田・白鳥の氏子により守られました。明治22年(1889)には境内の一部が陸軍に買収され、翌年に宇品の新開地の氏神となり遷座しました。現在は不動院近くの自在坂神社境内と、広島市水道局敷地内に分祀が各々祀られています。



広島市水道局敷地内の神田神社分祀の拝観はできません。

早稲田神社 永正8年(1511)に武田元繁は牛田山南東の丘陵に、八幡宮を勧請し壺(あげ)八幡宮とも称し鎮座しました。牛田地区の守護神として信仰を集め、毎年10月の第3日曜日に例祭が行われています。昭和32年(1957)に境内地を造成した際に、貝塚が発見され発掘が行われ弥生時代の珍しい風葬を持つ墳墓も確認され、県指定史跡の牛田の弥生文化時代墳墓となりました。祭神として金刀比羅神社と福荷神社があり、祖霊社には墳墓埋葬者の霊が祀られています。



安楽寺 永享元年(1429)に天台宗法大寺として建立され、天文2年(1533)に浄土真宗に改宗し安楽寺となりました。宝暦8年(1758)の大火で焼壊し、天明8年(1788)に再建された本堂は現存し、被爆時の焼け跡が今も残っています。親鸞ゆかりの銀杏は樹齢推定350年といわれ、被爆から本堂への焼壊を防いだとされています。木造如意輪観世音菩薩坐像は被爆で破損を受け、手や膝は破損したものの、残存の頭部は柔和で、市内で最古の観音像として市重文となっています。



に再建された本堂は現存し、被爆時の焼け跡が今も残っています。親鸞ゆかりの銀杏は樹齢推定350年といわれ、被爆から本堂への焼壊を防いだとされています。木造如意輪観世音菩薩坐像は被爆で破損を受け、手や膝は破損したものの、残存の頭部は柔和で、市内で最古の観音像として市重文となっています。

光明院

正式には醫王山興聖寺光明院といい、はじめは利益院といわれ周辺は本尊に因み薬師の町といわれ、やがて院号も現在名となりました。その後度重なる出火で再建され、旧山陽鉄道敷設に伴い現在地に移設されました。寺院前はコウメン河原(光明院河原)と呼ばれています。



禿翁寺

正式には寂靜山專稱院禿翁寺といい、紀伊国から信譽秀翁が移り住みその名に因み草創し、寛永年間に弟子の寂譽に譲ったとされています。本尊阿弥陀三尊立像は快慶の作と伝え、市指定有形文化財となっています。境内の特有な六地藏は原爆により一体が消失しました。



妙風寺

正式には白鳥山大乘院妙風寺といい、紀伊国より日意上人が移り住み元和初年に妙藏院を建立しました。肥後国八代城代加藤正方は清正の一族で、日意上人を助け壇頭となり清正を祀る堂塔を建て、没後法号の妙風院により寺号を改め、清正公祭りの起源となりました。



鏡津神社

広島藩九代藩主齊肅は天保6年(1835)に、浅野家の始祖長政を祀るために明星院の西半を割き、広島城の鬼門にあたる地に社殿を造営し、当時の大飢饉と財政苦に際し藩士の士氣の高揚をなしました。長大な竿石使用の石段や築地切込み石垣や、同進社建立の標柱は今も威容を示し、被爆焼失の本殿・向唐門・両部大鳥居は完全に復元されました。境内には127基の家臣寄進石灯籠のほか、被爆した水鉢や松の切株などが保存されています。



白鳥の史跡

礎神社 平安時代末と伝える「安芸国神名帳」に篤島明神があり、箱島の起源となり広島城下最古の神社と伝えられます。箱島にて往来の船が停泊する際に、礎を降ろしたことから社名は礎明神とも呼ばれました。毛利輝元は広島城築城の際に海神の怒りに触れ成就できず、祭神を現在地に祀り礎大明神となりました。境内には船繋ぎに用いた礎石が残っています。



八剣神社

昔から洪水時に京橋川沿いの土手が度々切れ、福島正則は人柱の代わりに秘蔵の名刀八振を箱に納め埋めました。元和3年(1617)に犠牲となった名刀を八剣大明神として祀り、川筋の土手に小祠が建てられましたが、寛政11年(1799)に現在の地に遷座したといわれます。



洞門寺

正式には巖峰山洞門寺といい、紀伊国より小野慶雲が移り住み元和7年(1621)の開基とし、初めは小野家の菩提寺でしたが、寛永9年(1632)以降西尾家の菩提寺となり継承されました。境内には「さする石」があり、秋葉権現を御神体とし、水をかけやすすり拝むと願いが叶うといわれています。この地には戦国末期に「柿里酒」と(おしり)を扱う茶屋がありました。



城下北郊の風物詩

歴史年表

宝亀2年	780	安芸国牛田社が大和国西大寺領となる。
延喜元年	901	菅原道真、二葉の里太宰院に上陸。
承久3年	1221	承久の乱が起こる。のちに武田信光安芸国守護となる。
正慶年間	1332~1334	新庄村に熊野新宮大明神を創祀。
貞和元年	1345	不動院が安芸安国寺となる。
文亀3年	1503	武田氏、神田八幡神社を建立。
永正8年	1511	武田氏、早稲田八幡神社を建立。
天正9年	1581	毛利氏は五箇村(広瀬・箱島・間)での騒動を鎮圧。
天正17年	1589	毛利輝元、見立山にて広島城築城を決定し、城下建設を開始。
天正19年	1591	輝元は112万石余を領し、広島城に入城する。
文禄3年	1594	安国寺恵庵は新安国寺、輝元は白神社社殿を建立。
慶長5年	1600	関ヶ原の合戦。毛利氏は萩城下に城封、福島正則が尾張国より入城する。
元和元年	1617	大洪水が起き正則は堤防を築き、八剣神社を建立。
元和5年	1619	幕府は福島氏を改易、紀伊国から初代藩主浅野長晟が42万石を領し入城する。
元和6年	1620	長晟、上田宗箇に繪景園の築造を命ずる。
寛永10年	1633	幕府の命で西国街道を整備、広島町法度、郡中法度、浦法度を制定。
承応3年	1654	楠木村に黒皇大明神を創祀、大歳・楠木の両社を合祀。
寛文3年	1663	藩主学問所として日新館を建立。
寛文4年	1664	一本木・牛田間に神田橋が架かる。
元禄8年	1695	二代藩主光晟の夫人満姫は日通寺を建立。
明和5年	1768	桑原卯之助により定用水(八木用水)が完成。
天保6年	1835	広島城鬼門封じのため、九代藩主齊肅は鏡津神社を建立。
慶長3年	1867	大政奉還
明治4年	1871	廃藩置県
昭和20年	1945	原子爆弾投下

新山八景

二代目藩主光晟の夫人満姫は、毛利輝元造営の新山山荘を再現し、新たに世子修学用別行の日新館を置き、当時の藩儒黒川道祐の著に、この地から眺めた風光が紹介されています。

- ① 蔵島春霞 (遠景の宮島)
- ② 洪河帰帆 (太田川水運)
- ③ 山下落雁 (牛田山遠望)
- ④ 新山秋月 (浅野山白暮)
- ⑤ 大芝暮雨 (対岸の江風)
- ⑥ 武田残雪 (武田山冬景)
- ⑦ 古寺晚鐘 (不動院鐘声)
- ⑧ 広城夕照 (広島城光景)

()は風光の情景です。



「へえ」「なるほど」が、たくさん見えてきますよ。

安芸国広島城主

- 毛利家
- 福島家
- 浅野家

参考文献

- よみがえる日本の城7広島城福山城 学習研究社 H16 2004
- 名城を歩く19広島城 PHP研究所 H16 2004
- 歴史群像名城シリーズ9広島城 学習研究社 H7 1995
- お城つなごう?発見!広島城 (財)広島市文化財団広島城 H15 2003
- 広島城下町物語 (財)広島市歴史科学教育事業団広島城 H8 1998
- 広島城下町跡踏査 広島市立中央図書館 H2 1990
- ひろしまへそガイドブックくらしと歴史 広島市中央公民館 H12 2000
- 白鳥~創立七十周年記念誌 広島市立白鳥小学校 S47 1972
- 創立百周年記念誌~白鳥 広島市立白鳥小学校 H15 2003
- 二葉みちるべ 広島市二葉公民館 H5 1993
- 歴史があなただけに譲りかたの広島市東区二葉の歴史の散歩道 広島市東区役所政報課 H21 2009
- 牛田町町誌 牛田ニューズ50号記念 牛田ニューズ S61 1986
- 安芸国牛田鎮座早稲田神社の五百年 H22 2010
- 三篠町沿革誌 三篠町沿革誌発行所 S5 1930
- 歴史ガイドブック~みたち 広島市西区役所 H19 2007
- 狭げは歴史が見えてくる 普くくりマップ 御蔵 H30 2018
- 八木用水~広島市郷土資料館調査報告書第17号 広島市郷土資料館 H16 2004
- 図説広島市史 広島市公文書館 H11 1989
- 新修広島市史 広島市 S33~S37 1958~1962
- 広島新史~資料編II 広島市 S59 1984
- 広島県の地名 平凡社 S57 1982
- 角川日本地名大辞典(広島県) 角川書店 S62 1987
- 広島県神社誌 広島県神社庁 H6 1994
- 知新集
- 芸藩通志

協力団体

広島県稲草園
(公財)広島市文化財団(文化財課・広島城・中央図書館・牛田公民館・三篠公民館)
二葉の歴史史の散歩道ボランティアガイドの会

編集

広島城下町案内家
(公財)広島市文化財団
中区内公民館(中央・竹屋・吉島・舟入)
幹事館:中央公民館
〒730-0005
広島市中区西白鳥町24番36号
TEL:082-221-5943 FAX:082-221-5118
E-mail:chuo-k@cf.city.hiroshima.jp

発行

平成23年3月初版
平成30年11月改訂版
広島市中区役所市民部地域起こし推進課
〒730-8587
広島市中区国泰寺町一丁目4-21
TEL:082-504-2546 FAX:082-541-3835
E-mail:na-chiki@city.hiroshima.jp

広島城北今昔物語

普段になげなく通っている場所も、城下町であった時は、今は別の顔がありました。当時の様子を想像して通るのも楽しいかもしれません。広島城下北郊の史跡を訪ねます。

広島に築城を思い立った高田郡山城主の毛利輝元は、佐東郡五箇村と呼ばれ舟運の発達した太田川河口に着目しました。二葉山や己斐山や神田山に登り思案をし、「在間」の島上に城地を見立てました。「見立山」とも呼ばれた神田山と遠く巖島を、二葉と己斐の山稜をそれぞれ見直し、その交点となる在間の地に名城「広島城」を建てたといわれます。

山県郡太田郷より流れる母なる太田川は、下流においてデルタ(三角州)を形成し、各支流に分かれ広島湾に流れています。三篠・白島・牛田の地区を分け、東西に分流する形状で「二股川」と呼ばれ、古代には京橋川が安芸と佐伯の郡界でした。「白島」は古社の礎神社の古名の筥島や箱島が起源で、やがて訛って現在の地名となりました。奈良西大寺の荘園とされた「牛田」は潮田(うしおだ)が起源ともいわれ、舟運が発達し流域の文化が栄えました。太田川や支流が並び篠(笹)の葉を重ねる形状で、御篠の地名がおこり「三篠」となりました。「不動院」(旧安国寺)では戦国時代に安国寺恵瓊が活躍し、毛利輝元は天正19年(1591)に112万石余を領し「広島城」に入城しました。続く福島正則は城下の整備を行い、西国街道を現在の地に付け替え、出雲石見街道を横川橋から北方方面へと結びました。さらに、元和5年(1619)に入城した浅野長晟は、42万石余を領し藩政の基礎をつくり、翌年に名園「縮景園」を造営し、牛田地区の天神岩清水から竹樋で用水を引いたと伝えられています。

この城北大絵図で白島をはじめ三篠や牛田の各地区に、現在も残る城下町北郊の面影を眺め歩いてみましょう。「広島城下大絵図」とともに、江戸時代を旅してみてください。

北郊の町名あれこれ

今は消え去った昔の地名は、その時代にいきいきと暮らす人々の様子が目に浮かぶようです。母なる太田川や京橋川をのぞみ、江戸時代には城下町と北郊の村々が所在していました。

◆白島地区：中区◆

広島城下で最古と伝わる礎神社の古名は、平安末期の「安芸国神名帳」に「筥島明神」と、一書に「箱島」ともありその形状を伝え、広島湾頭の高島で佐東郡五箇村の一部でした。元和5年(1619)の「安芸国知行帳」に箱島とあり、その後訛って「白島」となったとされています。「知新集」では、城下中通組に属す東白島町と西白島町と、新聞組に属す白島村を載せています。また、東町には三軒紺屋や立味小路を西町には新小路を、白島村は安芸郡と沼田郡に属し、九軒町や薬師の町や一本木などの地名を載せています。一本木には下級武士の居住する「百軒多聞」もあり、西町には城下の火の見櫓三箇所の一つがありました。

◆牛田地区：東区◆

古くは宝龜11年(780)の「西大寺資料流記帳」に、「安芸国安芸郡牛田莊因二巻」を載せ、同書の建久2年(1191)の注進状案には壘田79町があったと記されます。延喜元年(901)に菅原道真が二葉の里末原に船を着け、尾長天満宮の御れとなりました。正応2年(1289)に在官人田所氏は牛田村に領地を所有し、後の新山村も領地の一部となりました。武田氏は文龜3年(1503)に神八幡宮を、永正8年(1511)に早稲田八幡宮を勧請し、その後大内氏から毛利氏へ牛田の地を受け継ぎ、弘治3年(1557)に毛利隆元は舟方館を設けました。慶長6年(1601)の惣領地では牛田村と新山村の二村に分かれ、文政8年(1825)の「芸藩通志」では田島が半々で綿作を主とし、潮入りの土地柄を伝える「潮田」(うしおだ)の名残を今も留めています。

◆三篠地区：西区◆

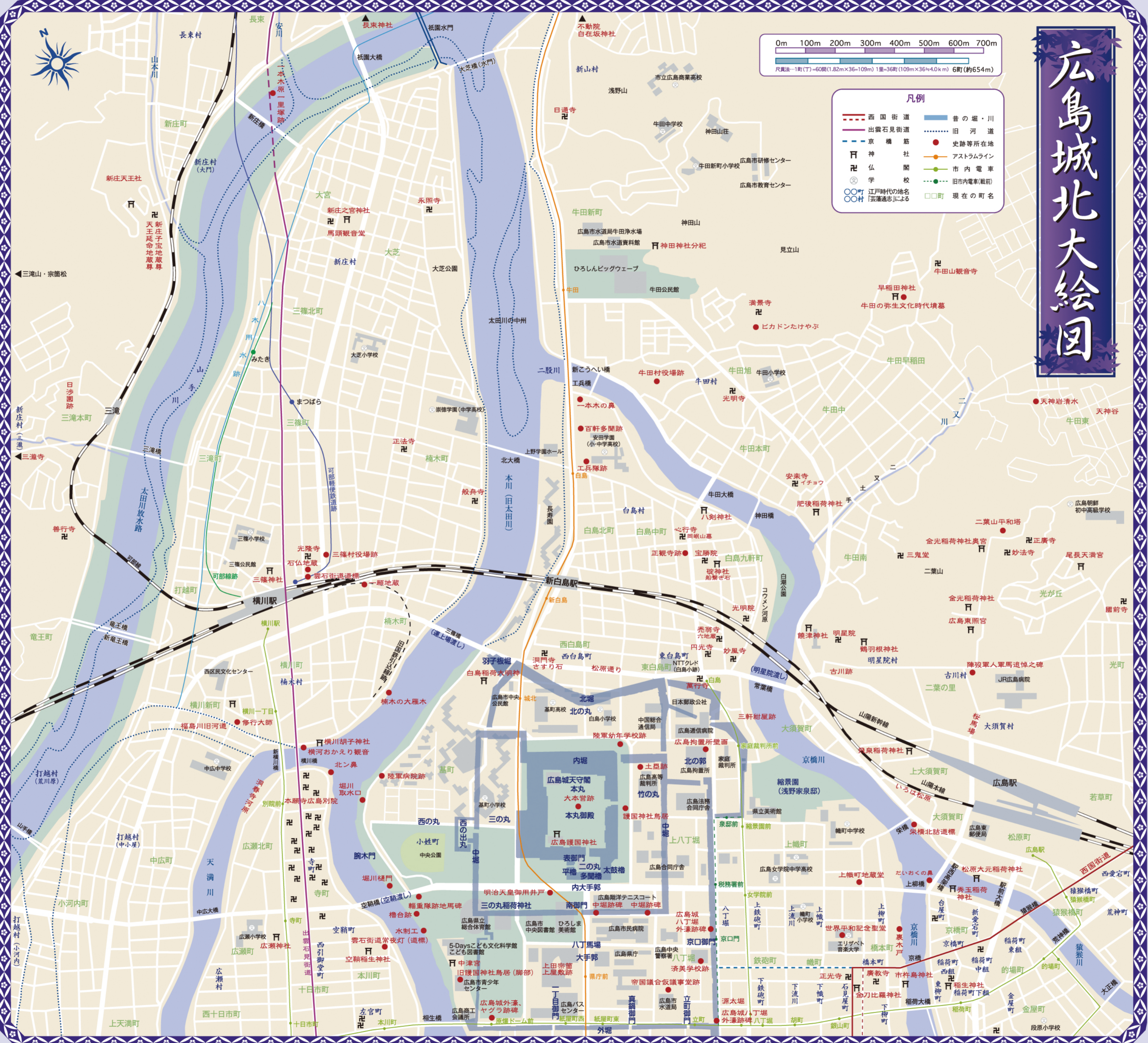
三篠地区は江戸時代には沼田郡に属し、新庄村と楠木村と打越村に分かれ、明治22年(1889)に合併し三篠村に、同31年(1898)には安芸郡に属し、同40年(1907)に町制を敷きました。「新庄村」は古代の佐伯郡桑原郷で、それに連なる中世の桑原新庄の一部に由来し、村内を通る出雲石見街道には、長束村界の一本木塚が置かれました。「楠木村」は別府楠木といふ村内の大楠木に因み地名となり、交通便利な土地柄に茄子や藍が作られました。「打越村」は太田川から天満川などが分岐し、洪水時に堤防を崩し内部の冠水を川越して排水し内越と呼ばれたといわれ、川筋の各地区では潮入りの土地柄で綿作が盛んに行われました。

広島城北大絵図



凡例

- 西国街道
- 出雲石見街道
- 京橋筋
- 神
- 仏
- 学
- 江戸時代の地名
- 現在の町名
- 昔の堀・川
- 旧河道
- 史跡等所在地
- アストラムライン
- 市内電車
- 旧市内電車(戦前)



郡名の変遷

佐伯(さへき)	安芸(あき)	平安初期
佐西(さいせい)	安芸(あき)	平安末期
佐伯(さへき)	安芸(あき)	寛文4年(1664)
佐伯(さへき)	安芸(あき)	明治31年(1898)
佐伯(さへき)	安芸(あき)	昭和48年(1973)

広島城歴代城主

- 毛利輝元 (1591~1600)
- 福島正則 (1600~1619)
- 浅野長晟 (1619~1632)
- 浅野光晟 (1632~1672)
- 浅野綱晟 (1672~1673)
- 浅野綱兵 (1673~1708)
- 浅野吉長 (1708~1752)
- 浅野宗恒 (1752~1763)
- 浅野重晟 (1763~1799)
- 浅野奔賢 (1799~1830)
- 浅野奔重 (1831~1858)
- 浅野慶庵 (1858~1858)
- 浅野長訓 (1858~1869)
- 浅野長勲 (1869~1869)

掲載史跡名

白島地区

- 礎神社(いかりじんじゃ)
- 八剣神社(やつるぎじんじゃ)
- 洞門寺(とうもんじ)
- 心行寺(しんぎょうじ)
- 宝勝院(ほうしょういん)
- 光明院(こうみょういん)
- 禿翁寺(とくおうじ)
- 妙風寺(みょうふうじ)
- 饒津神社(にぎつじんじゃ)

牛田地区

- 神田神社(かんだじんじゃ)
- 早稲田神社(わせだじんじゃ)
- 安楽寺(あんらくじ)
- 不動院(ふどういん)
- 日通寺(にっつうじ)

三篠地区

- 三篠神社(みさきじんじゃ)
- 新庄之宮神社(しんじまのみやじんじゃ)
- 三瀬寺(みたきじ)
- 長束神社(ながつかじんじゃ)